



2020年度 秋季審判講習会

2020年9月13日
麻生区ジュニアサッカー連盟
審判部

本日の流れ

テーマ

「レフェリーとしての基礎の確認」

～2020年度公式戦担当へ向けて～

- 1 はじめに
- 2 試合の手続き ～キックオフまで～
- 3 競技規則の確認 ～ファウル、オフサイド、PK～
- 4 2審制のポイント
- 5 飲水タイムの扱い



1 はじめに

審判員は・・・

競技規則および「サッカー競技の精神」に従って

- ・その能力の最大を尽くして
- ・競技規則の枠組の範囲で与えられた裁量権をもって決定する存在

⇔4種のコーチングに置き換えると・・・

勝利を目指して**全力を尽くす子どもたち**に対して

- ・子どもたちが**最大限にサッカーに集中し**
(審判員に、ではない)
- ・子どもたちが**競技規則を主体的に守ってプレー**
するよう促す存在
(ゴールを目指す(守る)意図を感じる**ことが重要**)

審判員は・・・

そんな存在となるためには、
3つのステップが重要。

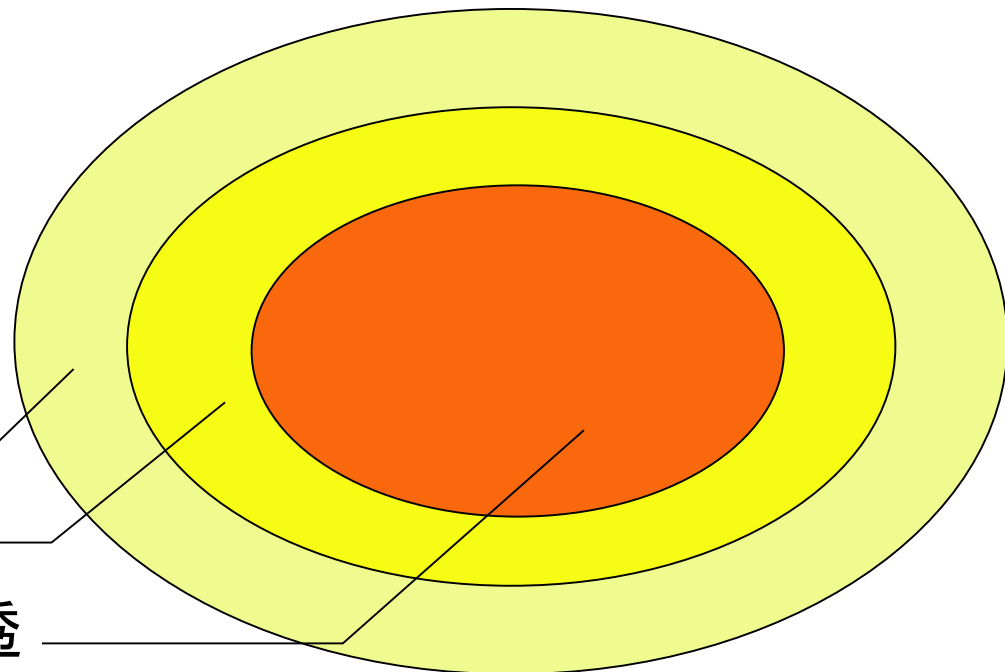
- ✓ 求められる存在となるために必要な
サッカー審判員の3つのステップ

競技規則の・・・

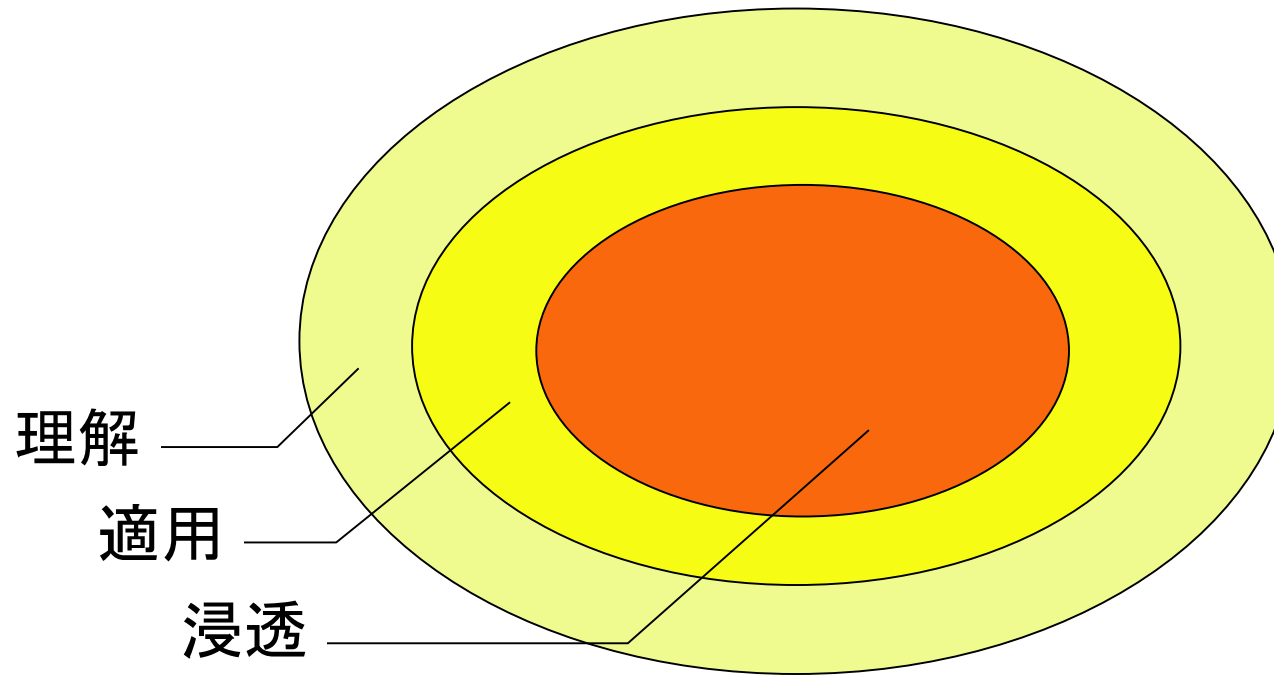
理解

適用

浸透



3つのステップ



理解：競技規則を、その理念や背景も含め正しく理解すること。
適用：目の前の事象に規則をスピーディかつ正しく適用すること。
浸透：毅然とした態度、明確なシグナルで、競技者にルールを浸透させること

★理解だけでなく、適用を目指す！★

★そして、その浸透を目指す！★



2 試合の手続き

試合の手続き

- (1) レギュレーションの確認
- (2) 大会本部に挨拶と審判員証提示
- (3) フィールドチェック
- (4) メンバーチェック
- (5) レフェリーミーティング

(1)レギュレーションの確認

- 【競技人数】 11人制
- * 交代選手のエントリーは1試合につき7名まで
 - * 1チーム7名以上で試合成立
 - * 試合開始10分前までにメンバー表を本部に提出
- 【競技規則】 日本サッカー協会「2015年度競技規則」及び大会規定の競技規則によるものとします。
- 【競技方式】 ブロック別に予選リーグを行い、勝点・得失点差・総得点・抽選により各ブロックの順位を決定。さらに各ブロックのそれぞれ上位チーム、下位チームによる順位決定トーナメントを行い、最終順位を決定します。
- * 上位3チームが中央大会に進出できます(区内参加チームが8~10チームの場合に該当)。
- 【競技時間】 40分(20分ハーフ、ハーフタイム5分)
- 順位決勝トーナメントにおいては、同点の場合にはPK方式で勝敗を決定。ただし、決勝戦及び3位決定戦においては、同点の場合、5分ハーフの延長戦を行い、さらに同点の場合にはPK方式にて勝敗を決定します。
- 【選手交代】 退場した選手の再出場が可能な自由交代制
- 交代時には必ず交代用紙を本部に提出し、主審の承認を得てから選手の入替を行ってください。
- 但し、川崎市サッカー協会指定のメンバー表を提出の場合は、交代用紙は不要とします。
- 【棄権】 試合開始時刻に遅れた場合は原則として不戦敗とし、予選リーグでの不戦敗は当該チームの対戦結果を全て無効とします。また、試合開始時に選手が7名に満たない場合も棄権と見做します。
- 【その他】
- ◎ 出場チームは、原則として試合開始30分前には会場へ到着してください。
 - ◎ 選手はエントリーの有無に係らず、人数制限なくベンチ入りが可能です。スタッフは3名までです。
 - ◎ スケジュール表の割振りに従い、審判のご協力をお願いします。必ず審判服を着用し、担当試合の開始5分前までに本部に集合下さい。
 - ◎ 第1試合・第2試合のチームは、第1試合開始の1時間前に集合し、会場準備のご協力をお願いします。
 - ◎ 最終試合のチームは、後片付けのご協力をお願いします。
 - ◎ 事故や怪我等については、各チームの責任において対応下さい。
 - ◎ 各会場の使用に際しては、注意事項を厳守して下さい。

(1)レギュレーションの確認

	松村杯	かわしん杯	春季低学年
開催時期	9月19日～ 11月1日	9月26日～ 11月21日	9月19日～ (地区大会)
人数	予選リーグ8人制 決勝・3決11人制	8人制	8人制
試合時間	予選リーグ30分 決勝T 40分	30分	20分
審判員	4名 (R、A1・2、4th)	2名 (R1、R2)	2名 (R1、R2)

※ いずれも2019－20シーズン競技規則を適用。
⇒コイントスの方法、ドロップボール、フリーキックの壁、
ハンドボール、自ペナルティエリア内での再開、
素早いフリーキックでの再開、競技者の交代(11人制)

(2) 大会本部への挨拶と審判証提示

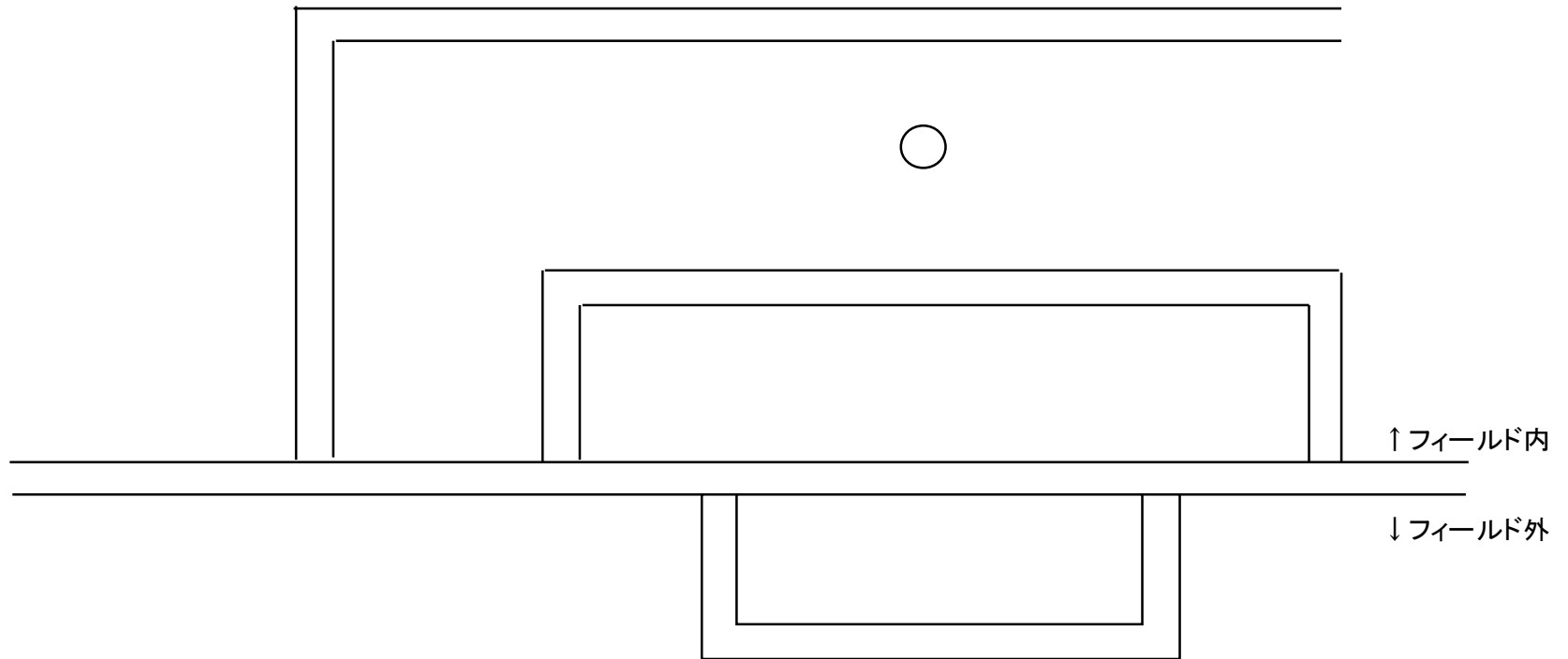
審判登録証はアプリで用意しておくとも便利。

JFAIDが必要。

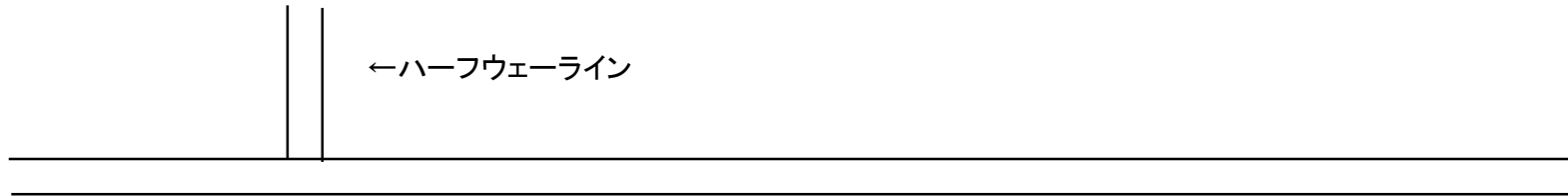
本部では、改めてレギュレーションの確認をしておくとも安心。



(3) フィールドチェック



(3) フィールドチェック



ベンチ

(4) メンバーチェック

- ・メンバー表記載の名前と背番号の合致を確認
- ・用具チェックも同時に行う

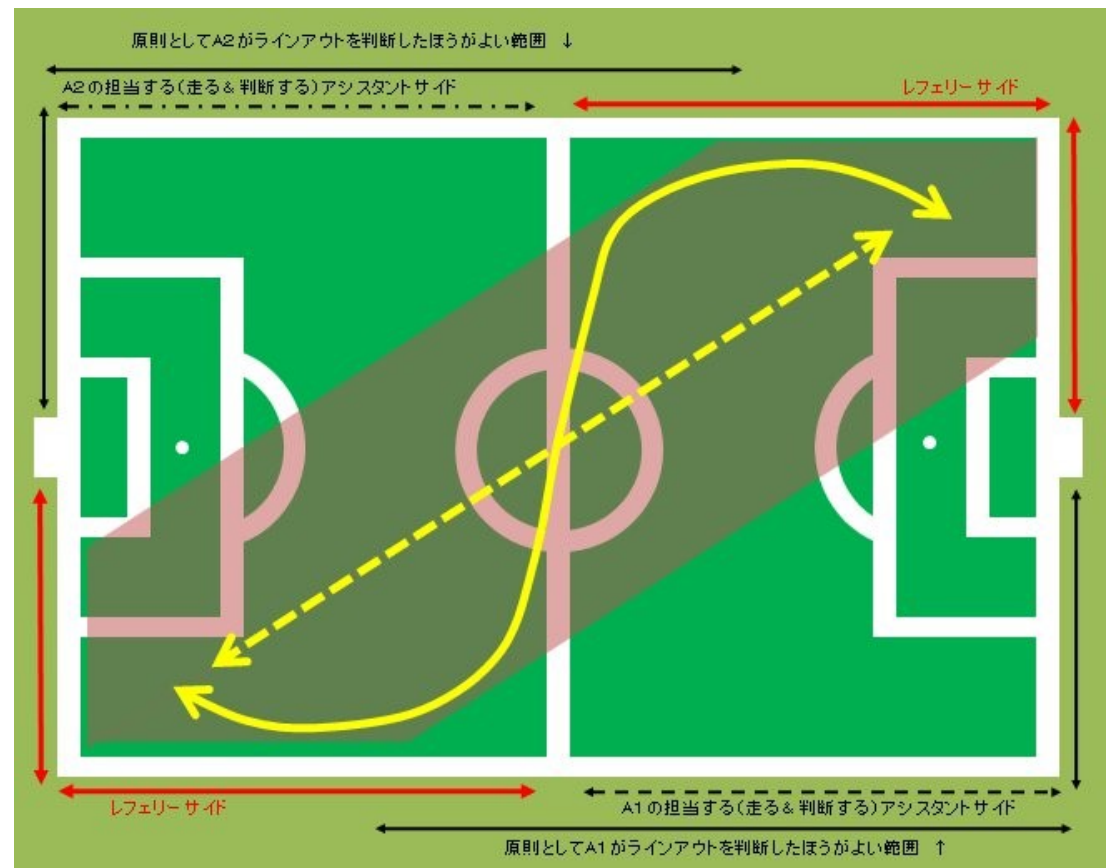
⇒並んだ順番に背番号を読み上げて、
名前を答えさせると効率的。



(5) レフェリーミーティング

- ・スローインの役割分担(手、足)
- ・ファウルの対応(PA内外、オフサイド未採用)
- ・得点に関する判定の対応
- ・オフサイドに気付かないときの対応
- ・フリーキック時の
ポジショニング
- ・アイコンタクトの
徹底

※ 入場時の10秒
を逃さない!





3 競技規則の確認

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇直接フリーキックとなる行為①(程度あり)

競技者が、インプレーの時、相手競技者に対して

- ✓チャージする
- ✓飛びかかる
- ✓ける、またはけろうとする
- ✓押す
- ✓打つ、または、打とうとする(頭突きを含む)
- ✓タックルする、または、挑む
- ✓つまずかせる、または、つまずかせようとする

不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したかどうかを主審が判断

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇直接フリーキックとなる行為①(程度あり)

不用意とは・・・

注意や配慮の欠如、**慎重さ**を欠いてプレー
⇒懲戒罰なし

無謀とは・・・

危険にさらされていることを無視、**結果的に危険**
となるプレー
⇒警告

過剰な力とは・・・

必要以上の力を用いて危険にさらすプレー
⇒退場

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇直接フリーキックとなる行為②(程度なし)

- ✓ハンドの反則
- ✓相手競技者を押さえる
- ✓身体的接触によって相手競技者を妨げる
- ✓人をかむ、または人につばを吐く
- ✓ボール、相手競技者または審判員に対して物を投げる、あるいは持った物をボールに当てる

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇ハンドの反則 ～状況による判定～

- ✓手や腕をボールの方向に動かす場合を含め、手や腕を用いて意図的にボールに触れる
- ✓ボールが手や腕に触れた後にボールを保持して、またはコントロールして、「相手競技者のゴールに得点」「得点の機会」を作る
- ✓偶発的であっても、手や腕から相手チームのゴールに直接得点する

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇ハンドの反則 ～身体的な判定～

- ✓手や腕を用いて体を不自然に大きくした
- ✓競技者の手や腕が肩の位置以上の高さにある
ただし、
 - ✓競技者自身・近くに別の競技者の頭または体から直接接触れる
 - ✓手や腕を用いて体を不自然に大きくしていない
 - ✓競技者が倒れ、体を支えるために手や腕が体と地面の間にある
場合はノーファウル。

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇警告となる反則

- ✓ プレーの再開を遅らせる
- ✓ 言葉または行動により異議を示す
- ✓ 主審の承認を得ずフィールドに入る、復帰する、意図的にフィールドから離れる
- ✓ 規定の距離を守らない
- ✓ 繰り返し反則する
- ✓ 反スポーツ的行為を犯す

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇反スポーツ的行為 ～解釈の整理～

- ✓シミュレーション
- ✓直接フリーキックとなる反則を無謀に行う
- ✓大きなチャンスとなる攻撃を妨害する(ボールにプレーしようとしてペナルティキックとなった場合を除く)
- ✓決定的な得点の機会を阻止する(ボールにプレーしようとしてペナルティキックとなった場合に限る)
- ✓手または腕を使って得点しようと試みる(失敗した場合も警告)
- ✓言葉で相手競技者を惑わす

(1) 第12条 ファウルと不正行為

◇退場となる反則

- ✓ 決定的な得点の機会を阻止する(ハンドの反則の場合)
- ✓ 決定的な得点の機会を阻止する(ボールにプレーしようとしてPKとなった場合を除く)
- ✓ 著しく不正なプレーを犯す
- ✓ 乱暴な行為を犯す
- ✓ 同じ試合の中で2つ目の警告を受ける
片足・両足で前・横・後ろから突進した場合
⇒ 著しく不正なプレー！
- ボールに挑まず、粗暴な行為を行う(行おうとする)
⇒ 乱暴な行為！

すばやいフリーキック -第12条-

- ・主審が警告または退場と判断した場合、懲戒の罰則の処置をし終えるまでプレーを再開させてはならない。
ただし、

- ・懲戒の罰則はプレーが停止されたときに行われる。
- ・適用された反則が、

競技者は

(2) 第11条 オフサイド

◇オフサイドポジション

- ✓ 頭、胴体、または足の一部でも、相手競技者のハーフ内、ボール及び後方から2人目の相手競技者より相手ゴールラインに近い
- ✓ すべての競技者の手および腕は含まれない

オフサイドポジションにいることは、反則ではない！

◇オフサイドの反則

味方によってプレーされたか触れられた「瞬間」

- ✓ ボールをプレーする、触れる
- ✓ 相手競技者を妨害する
- ✓ その位置にいることによって利益を得る

(2) 第11条 オフサイド

◇オフサイドにならない

✓ 相手競技者が**意図的にプレーしたボール**を受けたとき

※ 意図的なハンドの反則は含む。セーブは含まない。

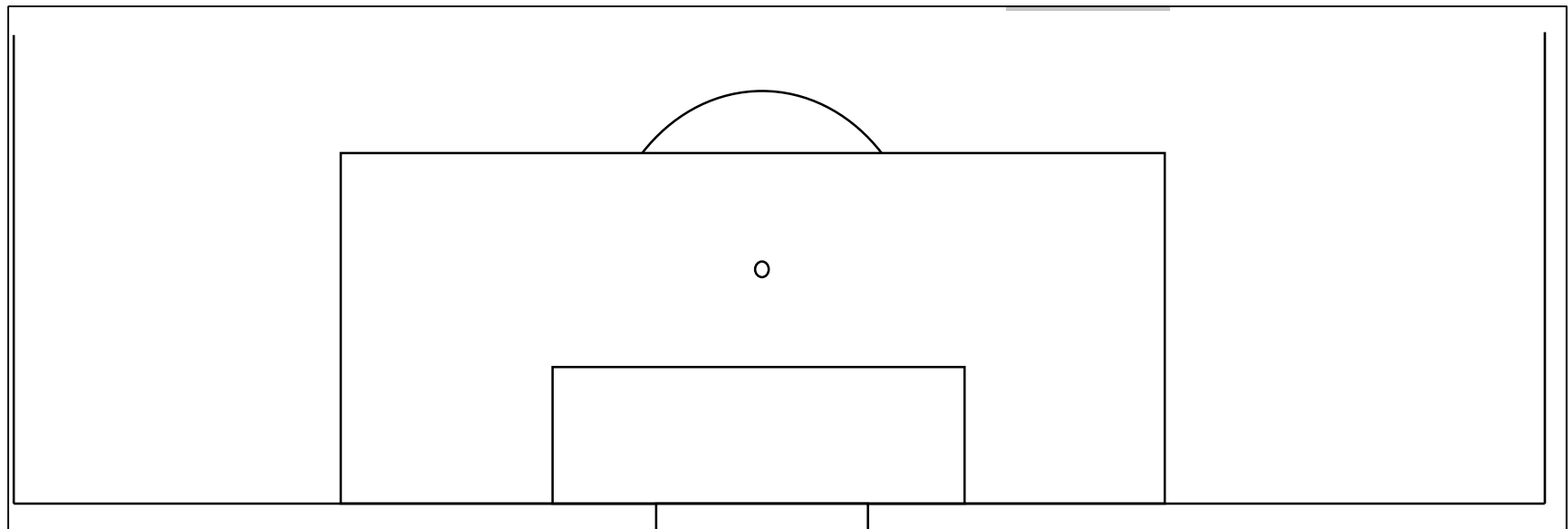
※ そのプレーが成功したか否かは無関係。

✓ ゴールキック、スローイン、コーナーキック

(3) 第14条 ペナルティキック

◇試合中のペナルティキック、キッカーとキーパー以外の位置取り

- ✓ペナルティマークから7m
- ✓ペナルティマークの後方
- ✓フィールドの中
- ✓ペナルティエリアの外



ペナルティーキックの結果

	ゴール	ノーゴール
攻撃側競技者による侵入		
守備側競技者による侵入	ゴール	ペナルティーキックを再び行う
ゴールキーパーによる反則		
ボールが後方にけられた	間接フリーキック	間接フリーキック
不正なフェイント		
特定されていないキッカー	間接フリーキック +特定されていないキッカーに警告	間接フリーキック +特定されていないキッカーに警告
<u>ゴールキーパー</u> <u>およびキッカーが同時に反則</u>	<u>間接フリーキック</u> <u>+キッカーに警告</u>	<u>ペナルティーキックを再び行う</u> <u>+キッカーとゴールキーパーに警告</u>

ペナルティキック -第14条-

- ・ボールが蹴られるとき、
守備側チームのゴールキーパーは、

をゴールラインに か、

ゴールラインの させていなければならない。

(4) その他の改正内容

キックオフ -第8条-

- ・コイントスに勝ったチームが、
- ・この結果により、相手チームがキックオフを行う、または前半に攻めるゴールを決める。
- ・前半に攻めるゴールを決めたチームは、後半開始のキックオフを行う。

ドロップボール -第8条-

- ・ボールが守備側チームのペナルティエリア内にあった、またはボールが最後に触れられたのがペナルティエリア内であった。
- ・その他のすべてのケースにおいて、
- ・他のすべての競技者は、ボールがインプレーになるまで、

フリーキックの壁 -第13条-

- ・ボールがインプレーになるまで、すべての相手競技者は、7m以上ボールから離れる&ペナルティエリア内で与えられた守備側のフリーキックの時はペナルティエリアの外にいないなければならない。

- ① 以上の守備側チームの競技者が② を作った時、全ての攻撃側のチームの競技者はボールがインプレーになるまで②から③ 以上離れていなければならない。

フリーキックが行われるとき、上記のように壁から離れていない場合、
が与えられる。

守備側PA内での守備側チームのプレー再開

- ・ボールが

ときにインプレーとなる。

- ・ゴールキック、フリーキックが行われるとき、相手競技者がペナルティエリアから出る時間がなく残っていた場合、主審は

- ・ペナルティエリア内にいる相手競技者が、

場合、キックは再び行われる。

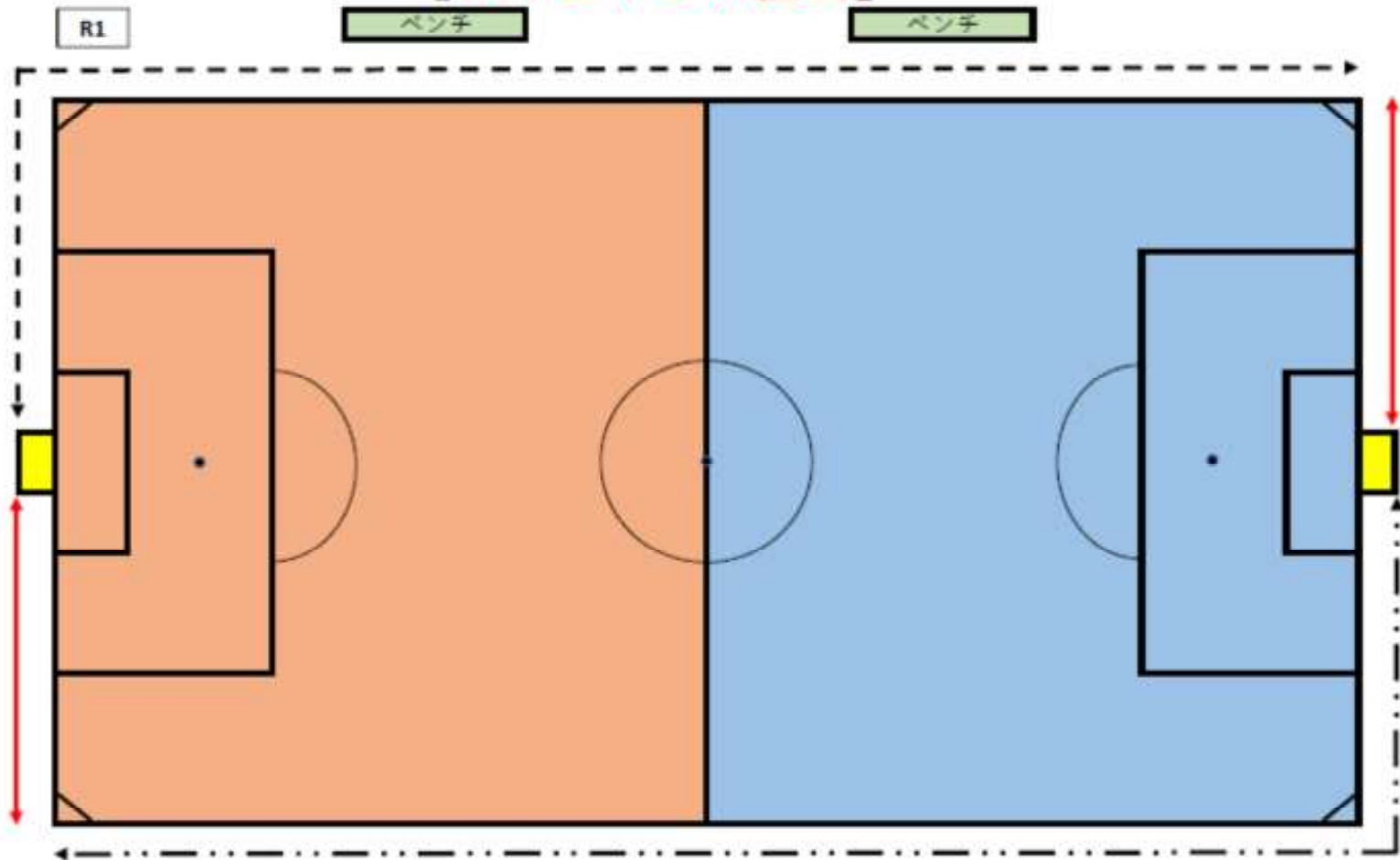
チーム役員への懲戒罰 -第12条-

- ・警告となる場合(例)
- ・退場となる場合(例)
- ・反則があり、その者を特定できない場合、



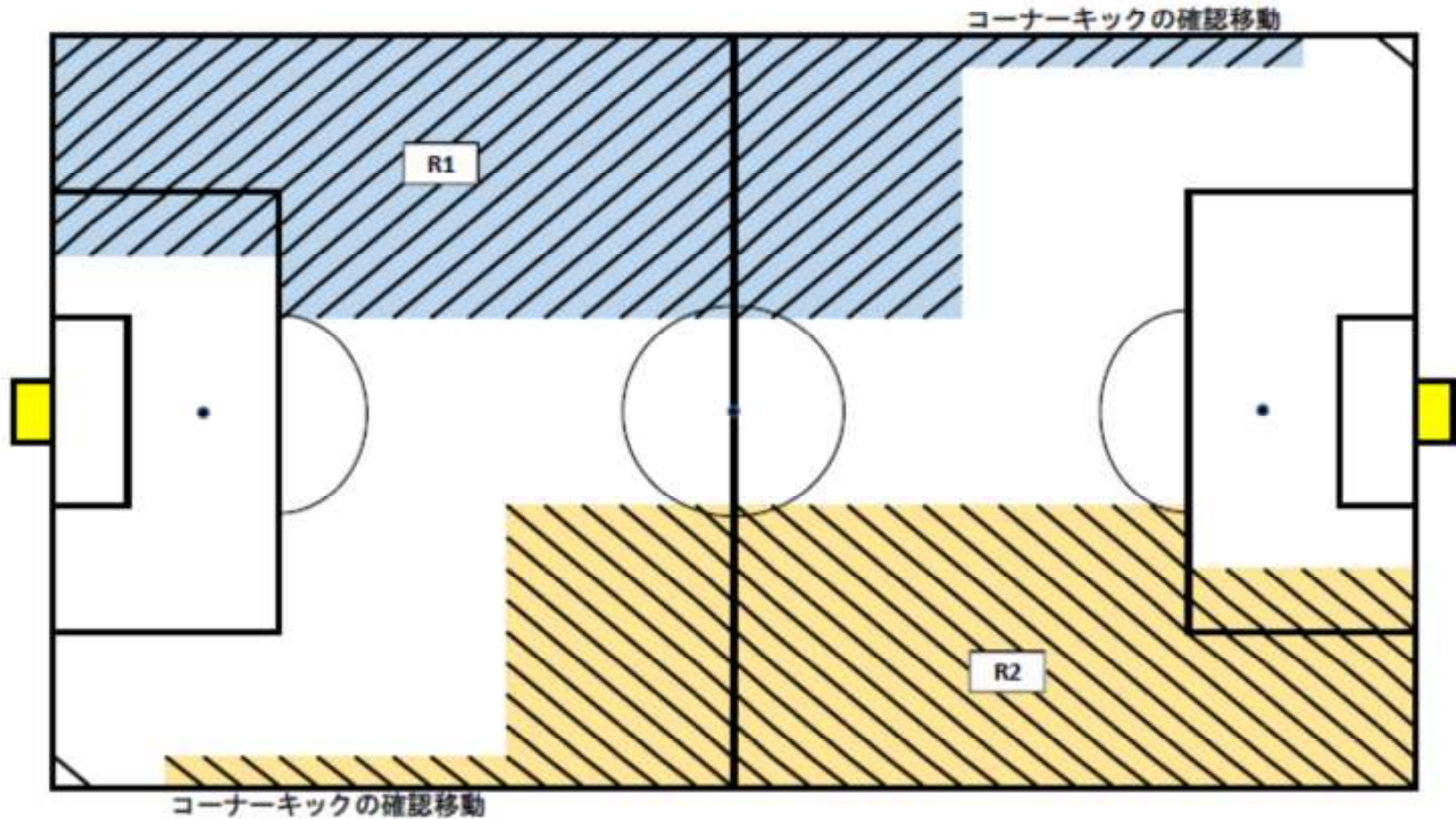
4 2審制のポイント



【R1とR2の担当】



- ・ R1がベンチ側、R2は反対側を担当する。
 - ・ R1は ←-----→ のタッチラインとゴールラインの判定を担当する。
 - ・ R2は ←·····→ のタッチラインとゴールラインの判定を担当する。
 - ・ R1とR2は、 ←————→ のゴールラインの判定を担当する。(角度や距離を考慮し、より良いRが判定する)
-
- ・ R1は 側のオフサイドラインを注視する
 - ・ R2は 側のオフサイドラインを注視する
- ※ 守備側の審判はオフサイドラインをキープする
(守備側の後方から2人目の競技者が相手フィールド内に入った場合は、注視する)

【審判の移動範囲】

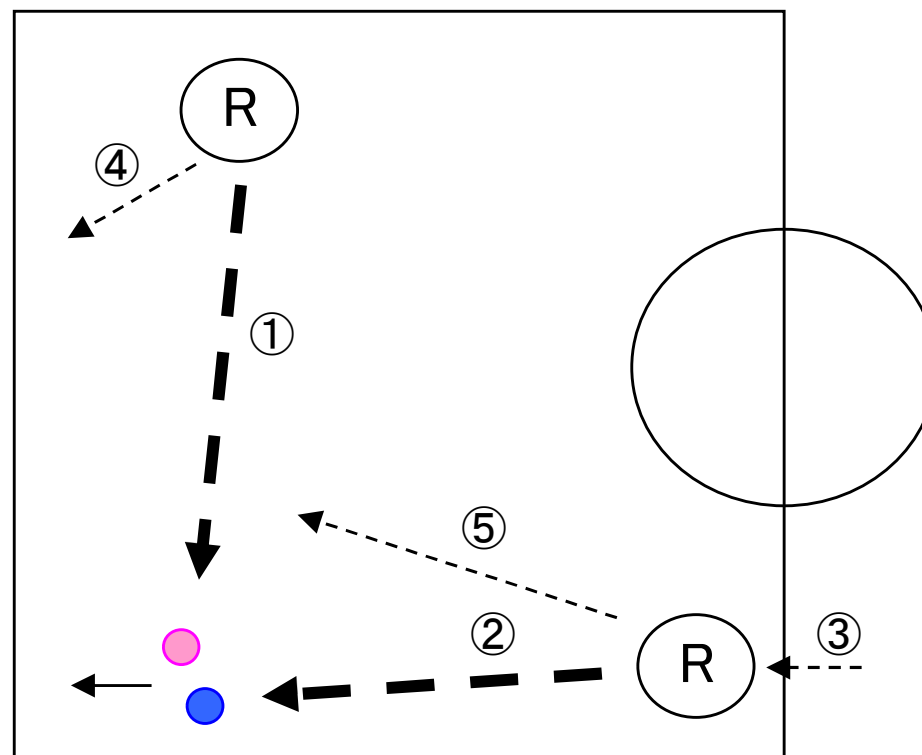


- ・ R 1は概ね  のエリア内を移動範囲とする
- ・ R 2は概ね  のエリア内を移動範囲とする

2審制の役割分担

- ✓タイムキーパーおよびキックオフのホイッスルをどちらが行うかを事前に決める
- ✓ファウルについては争点と距離に関わらず、認識したほうが判定する義務を負う
(遠いからと言って任せない)
- ✓自身のサイドのオフサイド監視・判定を行う
- ✓自身のサイドのスローイン・GK・CKの判定を行うが、相互に監視し適宜援助を行う
- ✓アドバンテージを適用したが、もう一方のレフェリーが笛を吹いた場合は、プレーを停止する
- ✓警告・退場の判定は、当該行為に対応したレフェリーが判定する(助言は受けても良い)

(役割分担の例)



- ①オフサイドの監視＋ファウルの監視
- ②タッチラインの監視＋ファウルの監視
- ③オフサイドライン上にポジショニングする必要ない
- ④争点に近づくために、ゴールに対し直線的な動き
- ⑤コーナーキック時はゴール前の監視に協力



5 飲水タイム

飲水タイムとクーリングブレイク

	飲水タイム	クーリングブレイク
場所	ピッチ内	ピッチ外 (テント等の日陰が望ましい)
時間	1分間を超えない	90秒から3分間
試合時間	ランニングタイム (県ルール)	試合時間外 (第4審が計測)
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 飲水のみ (体を冷やす行為、指示は禁止)	<ul style="list-style-type: none">・ 飲水・ 体を冷やす行為 (水をかぶる、タオルを当てる、ミストを浴びるなど)・ 監督・コーチの指示

麻生区ジュニアサッカー連盟審判部

審判部

田中 審判部長 真福寺FC
安藤氏 百合丘子どもSC 審判担当
加藤氏 南百合丘SC 代表
川崎市サッカー協会副理事長
酒井氏 真福寺FC
馬場氏 柿生SC
渡邊氏 柿生SC

レフェリー サポーター

10名程度 麻生区の各チームより有志

主な活動内容

- (1) 審判講習会(座学4月)
- (2) 春季低学年大会麻生地区予選
- (3) NKリーグ5年生大会
- (4) 審判講習会(実技9月、座学10月)
- (5) NKリーグ3年生大会
- (6) 新人戦5年生大会麻生地区予選
- (7) トレセン大会審判派遣



麻生区レフェリーサポーター制度について

一緒に、レフェリー、やろう！

麻生区では、主催大会を数多く実施しています。子どもたちの熱い戦いをサポートし、成長を支える黒子となるのがレフェリーです。
ぜひ私たちと一緒に、麻生区のジュニアサッカーを盛り上げませんか！

<募集概要>

- **主管** : 麻生区ジュニアサッカー連盟（以下「連盟」） 審判部
- **活動内容** : 連盟主催試合・トレセン試合の審判対応、審判講習会補助 等
- **参加要件** : 連盟所属チーム関係者（コーチ、父母、選手、OB）であり、
所属チームの了承のもとで活動を許される方。
サッカー審判員資格を保有している方。（今後取得を検討されている方も応相談）
- **応募方法** : 連盟審判部 田中までメールにて応募ください becks.hajime@gmail.com

ご清聴、ありがとうございました！



麻生区ジュニアサッカー連盟
審判部 田中

ルールに関するご質問等お気軽にお問い合わせください
becks.hajime@gmail.com